

狭山ファームの親方:清水藤作さんご夫妻



いつも狭山ファームでお世話になっている清水さんから、ある日突然、電話を頂きました。忙しさにかまけて私達があまりにも収穫に行かない為か、清水さん御本人が畑の野菜を収穫して、東京まで運んで下さるとの事です。恥ずかしながら、お言葉に甘えてお願いしたところ、早速届けて下さいました。軽トラでいらっしゃるものだとばかり思っていたのですが、乗用車での到着です。それも奥様も一緒に・・・ 大変恐縮致しました。さっそく野菜を

降ろそうと、車内を見てビックリ。なんと乗用車の後部座席をはずして、大根、ほうれん草、小松菜など、ほとんど全て収穫して運んで下さったのです。トランク内も白菜でぎっしりです。“重い”なんてものではありません。この状態で高速道路を走行して、狭山から届けて下さったとは・・・ 感謝感激と同時に、ただただ頭の下がる思いでした。車から降ろした野菜たちは、倉庫の前のガレージ一杯になるほどの量で、ビックリしました。早速、メンバーや普段お世話になっている親方達に、この事を話してお分けしました。私も以前ならば、夜中に懐中電灯を持って収穫に行っていたのです



が・・・ お恥ずかしい限りです。

狭山ファームの野菜は本当に美味しく、みな感激です。この野菜の美味しさは、動物達にも分かるらしく、家内が台所で大根や白菜を調理していると、我が家の犬達は皆、台所に集まって来て、その野菜の切れ端や皮をまるでヤギのように食べてしまいます。たとえ山ほど食べたとしても、彼らにとっては太る心配後無用の、とてもヘルシーで有難いおやつです。

毎週、カイロプラクティックで動物達がお世話になっている嶋田先生にも、野菜を少しおすそ分けした時の話です。夜中、何かガサガサと物音がするので、なんだろう？と行ってみると、何と飼い猫がほうれん草をくわえていたそうです。嶋田先生も、まさか猫が野菜に興味を持つという事は、全く予想外の行動だったようです。

余談になりますが、我が家のカジカガエルの餌用コオロギは、狭山ファームの野菜を本当によく食べます。ある日、在庫が無くなってしまったため、姉がスーパーで小松菜を買ってきてコオロギにあげたところ、不思議なことに数日経っても、1匹たりとも食べようとしません。数日後、仕方なく(?) 食べ始めたのですが、みな死んでしまいます。どうしようかと思っていたところ、台所の隅に狭山ファームの野菜のかけらを発見。早速コオロギにあげたところ、バリバリととても美味しそうに食べ始めました。よく見ると、コオロギ達のお腹は、食べた野菜色に染まり、きれいな緑色になっていました。もちろん1匹も死にはしません。買ってきた野菜には、きっとコオロギにとって致死量の農薬が含まれていたに違いありません。コオロギ達は、本能でそのことを感じとっていたのでしょうか。私達は、清水さんのおかげで、新鮮で大変に美味しく、安全な野菜を頂くことが出来ます。メンバーの人と顔を合わすと、必ず「野菜が美味しい」という話題が始まります。清水さん、いつも本当に有難うございます。

秋田の菊地勇さん&宮城の橋本史俊さん

合宿所の引越し時だけではなく、日頃SANCSで大変お世話になっているお二人です。昨年の秋、菊地さんの舌におできが出来て、秋田大学で手術をするという話を聞きました。私を始め、東京にいる者は、みな心配していました。特に、菊地さんをよく存じ上げている日獣大の筒井、織間両教授は、何かと私に様子を聞いて下さるというお心配りをして頂きました。

さて今年に入り、ご本人の様子もだいぶ良くなった頃、橋本さんから涙ながらに連絡を頂きました。「先生、勇さんの声が出るようになった!」と言って絶句しています。ふだん



私も菊池さんの事を心配していたとはいえ、病気の回復に対する喜びは当然のことながら、菊池さんを思う橋本さんの温かい友情も重なり、受話器を通して目頭が熱くなる思いでした。その後、橋本さんから快気祝いの知らせを頂き、さて何をお祝いにと思いましたが、ふと思いついたのが、筒井&織間両教授をお土産にしたら・・・と思い、ご両人のご都合を問い合わせたところ、あいにく学会の直前で当日は無理との事です。でも前日の夜ならば、という事になり、両教授、私と家内で出かけることになりました。たまたま出発の数日前、SANCs事務局の鈴木さんが我が家を訪れた時にその話をすると、鈴木さんは、「車の運転、誰がするの？ 雪道の運転だいじょうぶ？」と心配します。それを聞いた薫の一言「鈴木さん、雪道の運転なれてるよね？」で決まりです。忙しいのに、その日はスケジュールを空けておいてくれ、車の運転までしてくれるということです。本当に有難いことです。強力な助っ人登場というわけで、運転を心配することなく快気祝いの場：宮城と秋田の県境にある“鬼首（おにこうべ）”という、栗駒山のふもとにある小さな温泉宿へと出かけてゆきました。今だから言えるのですが、菊池さんは何かいたずらをして、実は閻魔様にもう少し舌を抜かれるところだったのです。しかし、無事抜かれずに、文字通り“生還した”という事で、みな大喜びの夜でした。菊池さん、いたずらは程々に・・・。

菊池さんが送ってくれたイワナは、飯田山荘の池で飼っていますが、飯田さんが毎日餌を与えてくださるお陰で、今年も随分と発育がよさそうです。採取の時は、皆に菊池さんのお話をしあげようと思っております。元気になって、本当に嬉しい限りです。そして橋本さんの温かい気持ちが、とても心にしみました。最後に“今だから”の話として、菊池さんの入院中、奥様とたびたびお話をしたのですが、だいぶ回復した頃、受話器の向こうの奥さんと2人で意見が一致したことは“これだけは代わってあげられないね”ということでした。菊池さん、本当におめでとうございます。今年はおみんなで飯田山荘に来て下さるそうですので、お会いするのが楽しみです。



田口幸夫さん

以前にもお話ししましたが、飯田山荘が現在あるのは、もちろん大家の飯田さんご夫妻のご理解、ご協力無くしてはならないのですが、工事途中で投げ出してしまった東京の大工の棟梁に代わっての工事のことはもとより、地元の親方達の紹介等、とにかく事ここに及んで“地元の親方の代表”と言っても過言ではないと思います。先日のこと、合宿所に行く度にエンジンをかけるようになっているブルーバードが、あいにくとエンジンがかかりません。果て、困ったものだ。東京へ運ばなければ・・・と思案していたところ、田口さんの助言で即解決。「私の知っている岩間の車屋さんで、この車のことをよく知っている人がいるけど、一度見てもらいますか？」と。私は「是非お願いします。」と即答し、お願いしたところ、いとも簡単に直してしまいました。“岩間”という地はとにかく不思議な場所です。実に多方面において、色々な達人がそろっていて刺激的です。今回のブルーバードの様に、何か問題が起きたとしても、何でも解決出来てしまいそうな気がします。

話は変わりますが、5月に予定している“茶摘&製茶”で必要な焙炉（ほいろ）を先日、田口さんに作って頂きました。ただ立派なだけではありません。「年に1回しか使わないじゃ、もったいないから普段も使えるように工夫しました」とおっしゃいます。見ると、普段の活動時ではバーベキューが出来るように工夫して作って下さったのです。さすがは田口さん。技あり！



岩野千穂さん 何時だったか、雨の中、合宿所の玄関に到着した時のことです。「家が息をしている！」と岩野さん。最初の頃は、空き家のような印象だったとも・・・。この日、私達の到着時間に合わせて、飯田さんが予め玄関を開けておいて下さったのです。また岩野さんは「ここへ来ると犬達も、子供達もみな笑っている」と言うのです。彼女は大変な愛犬家で、これまでも沢山の犬達と接してきましたが、そんな彼女でも“犬が笑う”という事に、今回初めて気がついたそうです。何て素敵な表現なのでしょう。合宿所では、犬や子供達ばかりではなく、大人達もみな笑っています。ここは、本当に不思議な空間です。もしかしたら“微笑の妖精”が住みついているのかも・・・？ いつでも“笑顔”の気持ちを忘れずに生活したいものです。